

拝啓

復活の春がやってまいりました。お元気にてお過ごしのことと存じます。エンカウンター4月号お届けいたします。

エンカウンターでは、私が読んで感銘を受けた文章を活字にしてお送りしていますが、これは私にとって「写経」であり、一番私自身のためになっているとつくづく思います。

今回の新渡戸先生の「一日一言」では、昔繰り返し学んだ懐かしい文章にいくつも出会いました。約20年前、非常に精神的に落ち込んで、悩んだ数年間がありました。その頃、「一日一言」の6月9日の「今日は曇る今日は雨降ると、不平を並べ立てても空は晴れぬ。雨が降るなら、傘一本でわが行動は定まる。」、8月7日の「同じ人を匹夫にするか豪傑にするか、小人にするか、どちらにも作り上げる力は、だれしも必ず出会する落胆失望のときに起こる一決心にあるのである。最後の十五分に来て、もうだめだと斃(たお)るるものはそれきり。もう一つと立ち上がれば後はしめたもの。」などは、当時繰り返し読んで、自分自身に言い聞かせました。今でも、至言だと思えます。

その頃は、いつもくよくよと後悔ばかりしており、性格は直らないと思っておりましたが、いつの間にか性格が変えられたことに我ながら驚きます。

小西先生の教えのエッセンスは、「主の御名を呼べ」と、「目の前の義務をなせ」の二つですが、「一日一言」に新渡戸先生が書かれている短文は、「目の前の義務をなせ」という基本ルールのいろいろな場合の表われ方を示していると思ひ、極めて興味深く感じました。

また、今回は、同封の「南原繁と現代」を贈呈させていただきます。この本は、昨年11月20日に開かれたシンポジウム「南原繁と現代」の記録を中心に、その他の南原先生に関する文章が収められています。キリスト新聞社社長で、to-be 出版代表の米窪博子さんの大変なご尽力によって立派な本が出来上がりました。私も3箇所(「南原繁と戦後教育改革」、「先生が後世に伝えたかったこと」、「編集後記」)に文章を掲載して頂いております。ご覧頂ければ幸いです。

敬具

平成17年3月30日

山口周三

エンカウターの読者各位